

大津卓滋 2019年ニューヨーク国連本部 SDGs 推進会議スピーチ全文

1. 昨年、委員会の設置を承認頂き、今回その報告と新たな展望を発表できる機会を実現させて頂いた事に深い感謝の念を表明致します。

2. 昨年の会議の後、「国連の友 SDG's 技術・人材育成推進委員会」を設立しました。当委員会は SDG's の推進主体を・農業・漁業・林業などの第一次産業、及び技術力を持つ中小企業であると考え、中小企業の技術力を使用し、第一次産業の収益力を向上させ、その結果その各主体が十分な収益を上げ、社会的・経済的力を持ちその力で SDG's に寄与してゆくことを目的といたします。そして当委員会の役割は、各現場の障害となっている問題に対する具体的な解決策を提案してゆくことにあると考えています。その目的達成のため、つぎのとおり二段階に分けて委員会を展開してゆくことにしました。

第一段階はネットワークを拡大することです。日本の各分野の現場において SDG's に寄与出来る活動を行っている団体又は個人が数多く存在していることが判りました。

又、世界的に通用する技術力を有する中小企業も多数あります。これらの団体や企業とネットワークを作り、現場のリアルな情報収集を行うことがまず不可欠な前提であると考えました。そして、この一年間各分野の活動の現場においてどのような問題が障害となっているのかミーティングを重ね、聞取りしてまいりました。

このネットワークは当然ながら双方性を有し、委員会としての情報も発信してゆきます。

このネットワークは、着実に広がっており、とりわけ、京都造形芸術大学との連携が実現できたことは、大きな成果です。

京都造形芸術大学に SDG's 推進室が設置されました。これは後に、SDG's 文化推進委員会の田中委員長から説明があると思います。

当委員会は、この大学の SDG's 推進室ならびに産学公連携本部と協力関係を築くことにより、SDG's を深化・推進していくための活動を、より広く展開出来ることになりました。

産学公連携本部とは、産業界と大学と国または地方公共団体が連携する組織です。

3. 第二段階としてこのネットワークにより収集した情報に基づき、各現場の障害をどうすれば解決出来るかという具体的な方法を考え、提案してゆくこととなります。

その為には衆知を集めなくてはならないので、そのための力を持った人々に会員として参加して頂きます。同時に資金も必要となるので、賛同者には賛助会員として、資金の協力を頂くこととなります。

4. ここで中小企業の技術により第一次産業の収益を上げる具体的な例を紹介します。

前回の会議で紹介した株式会社テクニカンの社長から後程種々の話があると思いますが、当委員会が目にした一つの例があります。

日本の広島はカキの養殖で有名なのですが、その養殖業者である株式会社ファームスズキという会社がテクニカンの冷凍機を採用しました。カキは生で食べると一番美味しいと思いますが、生で食することのできる期間が短いのです。そして従来の冷凍では解凍したらとても食べられるものではないと考えられています。

しかし、最初は「絶対無理だ」と言っていたこの業者が実際に解凍して食べてみたところ、美味しくてビックリしたそうです。

テクニカンの冷凍機を使うことにより、海外も含め、販路が格段に増大しました。今ではなんと冷凍カキの自動販売機も設置しようとしています。

この様に生食品の流通に存在する大きな障害をテクニカンの技術が解決し、これによりカキの業者の収益及び雇用も増大し、この冷凍商品が社会に浸透すれば生食品の廃棄が大幅に減少しSDG'sに寄与することになります。この具体例の様なスキームを、あらゆる分野で展開してゆくことが当委員会の目的です。

5. 今回、新たな中小企業を紹介致します。

東京にあるアダコテックという小さな会社です。コンピューターの認識ソフトにおいて、異常なものを瞬時に認識するという原理的認識ソフトの特許を使い、これを応用した商品を作成しようとする会社です。

この小さな会社の作成した商品が世界の製品製造工程に革命的な変化を起こす可能性を有しており、更に、人工知能の時代において人間の果たす役割について一つの提言になると考えます。この特許の発明者は、応用物理学者である私の兄です。彼は東京大学の博士号を取り、日本国の総合研究所である「産業技術総合研究所」のフェローでした。同研究所を退職後も「名誉リサーチャー」を授与されています。現在は、アダコテックの最高技術顧問です。

この原理的な特許は、様々な分野での商品化が可能なのですが、現在二つの分野で商品化が実現しております。

一つ目は、日本の大企業が持っている特許でトンネルのヒビの内部を深さ 50cm まで 60 枚の断面写真を撮ることが出来るものがあります。ヒビの内部を見ることが出来る有益なものですが、写真の量が膨大になり、その写真を判別出来る技術者が 3 人しかいないので海外からのオファーを断っている状態です。

これをアダコテックの認識ソフトを使えば異常な写真を瞬時に選び出し、その選ばれた写真だけを人間が見ればよいので、時間が 100 分の一くらい短縮できるのです。これはもう実用化されています。

二つ目は、製造業における製造された部品の不具合を最終チェックする検品工程のデジタル化

です。最近、自動車のミッション製造会社と契約しましたがこの会社は、世界のミッションのトップシェアを有する日本の会社です。これは出来上がったミッションの歯車等の不具合部品の検品において人が見るのではなく異常な製品を瞬時に認識する機械です。現在このミッション製造会社の世界中の工場に設置されつつあります。

更に日本のある大企業と現在検討しているのは、製品の製造機械内部にこの認識ソフトを使用することより、出来上がった製品は検品不要になる。即ち、製造工程から検品という工程をなくすることができるということです。これが自動車の全ての部品について実現すれば「リコール」ということを消滅させることも可能といわれています。「リコール」は不良な部品を見逃した結果発生するものがほとんどだからです。

6. 現在話題となっている「ディープランニング」によってもこのソフトと同様のことが可能なのです。しかし、ディープランニングはその中心部分がブラックボックスになっており、そこを操作することが出来ません。これに対しこのソフトは原理まで公開しているので、原理から操作し、検査品目に応じてその精度を高めることが可能なのです。

AIの普及によって人間のなす領域は何かということがよく問題にされますが、AIといえども人間が使う道具の一つにすぎないと考えます。原理から人間がコントロールできるこのソフトは、具体的にこのことを明らかにしています。

又AIにより既存の職業がAIに奪われて失業者が増えるという議論もあります。しかし長期的に考えればAIが出来る様な作業は本来人間がやることではないと思います。機械化は徹底的に進めて、本来人間のやることではない労働から人間は解放されるべきだと思います。

人間にしかできないことをやるのが人の本当の働く喜びだと思います。

7. 最後に当委員会は日本のあらゆる現場において草の根を育て大きく成長させようということを目指しています。時間がかかりますが、必ずや大きなうねりを作り出しSDG'sに大きく寄与できると信じています。現在この様な試みは日本ではあまりないと思います。無から有を作ろうとするときは、その方向性さえ間違っていなければリーダーシップを取る一人の人間の決して諦めない精神の力に全てがかかっていると思います。

私は当会の委員長として、リーダーシップを取る一人の人間になる覚悟を固めていることを表明し、私のスピーチを終えたいと思います。

ありがとうございます。